

国内ブロードバンド市場に関する調査結果 2008

—未利用世帯からの新規加入が鈍化傾向、今後の成長要因は“地デジ”と“ワイヤレス”—

【調査要綱】

矢野経済研究所では、次の調査要綱にて、国内ブロードバンド市場について調査を実施した。

1. 調査対象：主要通信キャリア・ISP 事業者（合計 23 社）
2. 調査期間：2008年5月～2008年6月
3. 調査方法：当社専門研究員による直接面接取材を基本とし、電話・FAX・e-mailによるヒアリングを併用

【調査結果サマリー】

◆ FTTH 同士での事業者の切替えがやや増加傾向、市場規模は横ばい

FTTH 同士での事業者の切替えが増加傾向、競合状況の激しい西日本エリアでより顕著である。また、ブロードバンド未利用世帯からの新規加入ペースが、やや鈍化傾向にある。

2008年度の国内ブロードバンド接続市場規模は1兆5,000億円（前年度比109%）とほぼ前年並にとどまる。

◆ 今後の成長要因は、“地デジ”“ケータイ”“ワイヤレスブロードバンド”

市場構造の変化によりブロードバンドサービスは次の成長期へ

個人向け市場において、CATV や FTTH の一部事業者では地上デジタル放送の切替え需要を巻き込み、アクセスサービスと放送（映像）サービスのバンドル率（セット率）が上昇傾向にある。一方で、フルブラウジングなど携帯端末から web サービスを利用できる環境の浸透や、メガクラスのワイヤレスブロードバンドサービスの普及など、“世帯”から“個人”をターゲットにしたサービスの進化により、市場構造は今後大きく変化していく。

【資料体裁】

資料名：「2008年版ブロードバンド白書」
発刊日：2008年7月4日
体裁：A4判 227頁
定価：157,500円（本体価格150,000円 消費税等7,500円）

◆ 株式会社 矢野経済研究所

所在地：東京都中野区本町2-46-2 代表取締役社長：水越 孝

設立：1958年3月 年間レポート発刊：約250タイトル URL: <http://www.yano.co.jp/>

本件に関するお問合せ先（当社 HP から承っております <http://www.yano.co.jp/>）

㈱矢野経済研究所 営業本部 広報グループ TEL: 03-5371-6912 E-mail: press@yano.co.jp

本資料における著作権やその他本資料にかかる一切の権利は、株式会社矢野経済研究所に帰属します。
本資料内容を転載引用等されるにあたっては、上記広報室迄お問合せ下さい。

【 調査結果の概要 】**1. 市場概況**

・国内ブロードバンドサービスの契約者数は、FTTHの急速な普及に牽引され、2007年度で2,800万を越えた。ただし、年間の純増数は年々鈍化傾向にあり、ブロードバンドの総純増数は、2005年度374万、2006年度313万、2007年度232万と推移している。

2. 注目すべき動向

・最近のトレンドとして、FTTH事業者では、ADSLユーザをメインターゲットにした「光IP電話+FTTH」による囲い込みが一巡してきたため、ユーザターゲットを“インターネット初心者”“インターネット未利用者”といった層へ広げつつある。

・セキュリティや加入時のセットアップサービスなどを標準的にセットしたサービスを増やしているところも少なくない。更に、テレビやゲーム機など、パソコン以外で繋がるインターネット（ブロードバンド）サービスをPRすることで、需要を喚起させようとの試みも目立つようになってきた。

・しかし、インターネットリテラシーのまだ高くない層を囲い込むには、慣れ親しんできている層を対象とする場合と比較して時間とコストがかかるため、純増ペースに影響してきている。

・FTTHからFTTHへの事業者間での切り替えも、やや増えてきている。特に、競合の激しい西日本エリアではその傾向が顕著になってきている。初期の頃にFTTHに加入したユーザが、再度他社サービスを比較検討して切り替えていくケースや、賃貸の集合住宅市場では、移転・転居を契機に事業者を切り替えるケースも増えてきている。

・事業者では新規契約時に数年の間契約変更や解約をできないような制限を設けたり、既存ユーザ向けサービスを手厚くしたりするなど解約防止対策を強化してきているところもある。

・個人向け市場では、CATV事業者や一部FTTH事業者などで地上デジタル放送の切り替え需要を巻き込み、アクセスサービスと放送（映像）サービスのバンドル率（セット率）が上昇傾向にあり、新規加入のバンドル率が30%~40%に伸びてきている事業者もある。

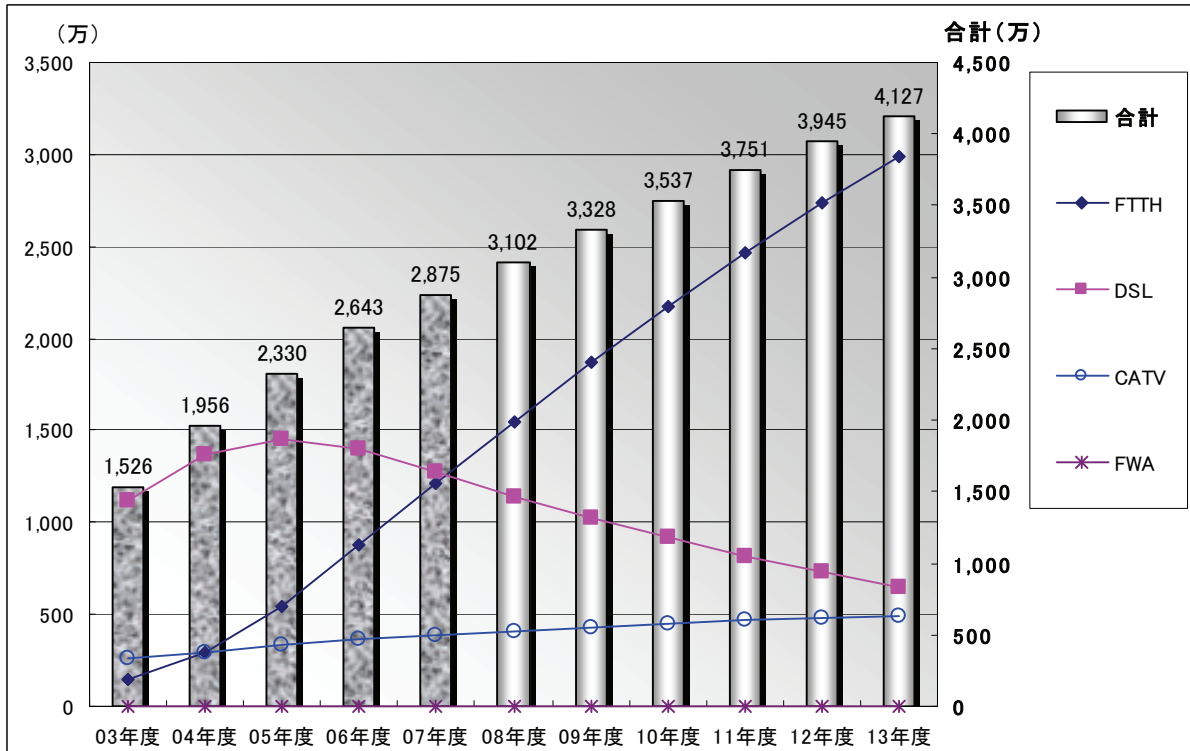
・光IP電話は固定電話という“ライフライン”の切り替え需要を巻き込み、FTTHの伸びに大きく貢献しているが、同様に生活に密着した“ライフライン”として根強い需要を保つ地上波放送は、今後の世帯向けアクセスサービスの普及を牽引するには有望なものとなる。

3. 市場の将来展望

・今後のブロードバンド市場に影響を与えるものとして、ケータイサービスの進化・ワイヤレスブロードバンドの立ち上がりが見られる。3G(Generation)・3.5Gの携帯電話の普及により、フルブラウジングなど携帯端末からwebサービスを利用できる環境が浸透し、固定系と移動系の端末・サービス・コンテンツが融合しつつある。また、DSL低~中速並のメガクラスのワイヤレスブロードバンドサービスが、ビジネスコンシューマや若年層を中心に認知されつつある。

・これらのことから、“世帯”から“個人”をターゲットにしたサービスの進化によって、市場構造が変化し、今後既存のブロードバンド市場環境も大きく影響を受けるものと予測する。

図1 ブロードバンド接続回線種別普及の推移と予測



矢野経済研究所推計

(万契約数)

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度 (予測)	09年度 (予測)	10年度 (予測)	11年度 (予測)	12年度 (予測)	13年度 (予測)
FTTH	145	290	546	879	1,215	1,549	1,868	2,168	2,464	2,734	2,984
DSL	1,120	1,368	1,452	1,401	1,271	1,143	1,029	919	819	729	649
CATV	258	296	331	361	387	409	429	448	466	480	492
FWA	3	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1
BB回線数合計	1,526	1,956	2,330	2,643	2,875	3,102	3,328	3,537	3,751	3,945	4,127

矢野経済研究所推計

注1: 03~07年度は総務省発表値。08年度以降は矢野経済研究所予測値。

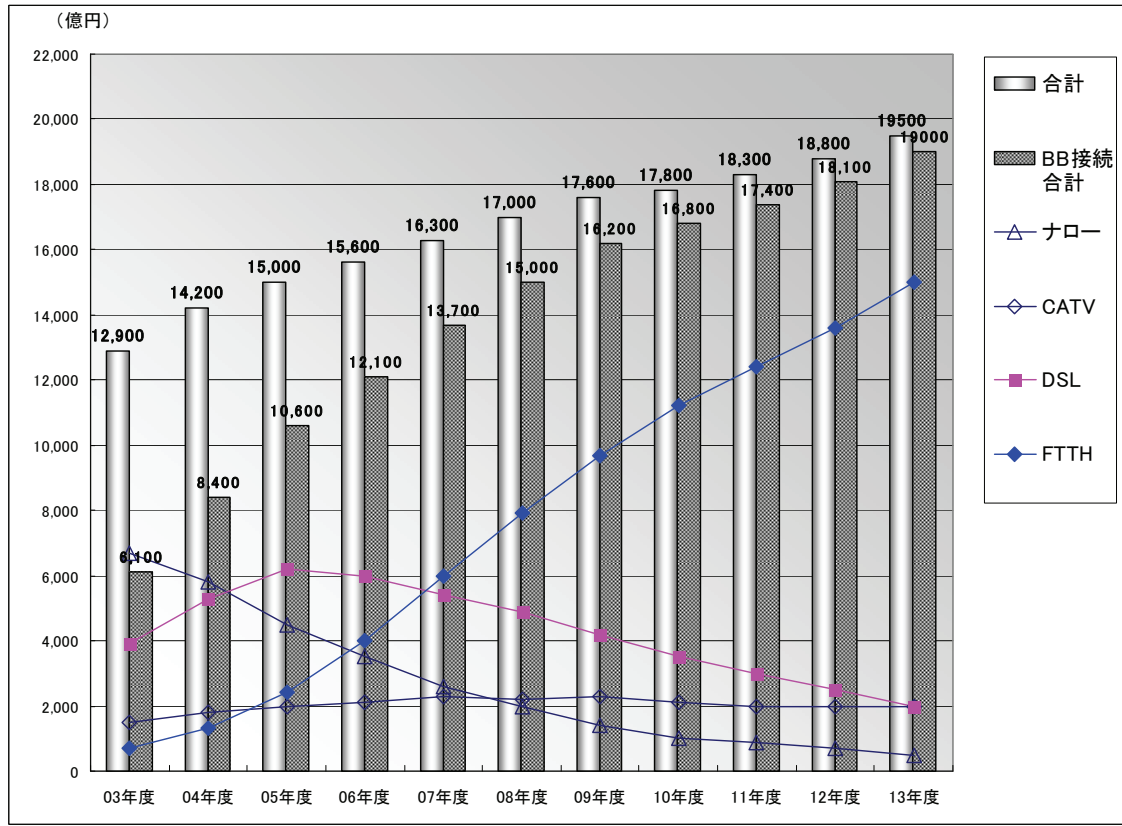
注2: FTTH; Fiber To The Home

注3: DSL; Digital Subscriber Line

注4: CATV; Cable Television

注5: FWA; Fixed Wireless Access

図2 インターネット接続市場規模の推移と予測



矢野経済研究所推計

(単位: 億円)

	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
FTTH	700	1,300	2,400	4,000	6,000	7,900	9,700	11,200	12,400	13,600	15,000
成長率		350%	186%	185%	167%	150%	132%	123%	115%	111%	110%
DSL	3,900	5,300	6,200	6,000	5,400	4,900	4,200	3,500	3,000	2,500	2,000
成長率		177%	136%	117%	97%	90%	91%	86%	83%	86%	83%
CATVアクセス	1,500	1,800	2,000	2,100	2,300	2,200	2,300	2,100	2,000	2,000	2,000
成長率		125%	120%	111%	105%	110%	96%	105%	91%	95%	100%
ナローバンド	6,700	5,800	4,500	3,500	2,600	2,000	1,400	1,000	900	700	500
成長率		92%	87%	78%	78%	74%	77%	70%	71%	90%	78%

BB接続市場合計	6,100	8,400	10,600	12,100	13,700	15,000	16,200	16,800	17,400	18,100	19,000
成長率		169%	138%	126%	114%	113%	109%	108%	104%	104%	105%
インターネット接続市場合計	12,900	14,200	15,000	15,600	16,300	17,000	17,600	17,800	18,300	18,800	19,500
成長率		118%	110%	106%	104%	104%	104%	104%	101%	103%	104%

矢野経済研究所推計

注1: インターネット接続市場について、ISP サービス・回線事業などの「接続サービス」を算出。IP 電話・映像サービスなどのアプリケーションや、セキュリティ・コンテンツなどの付加サービスは含まず。

注2: ワイヤレスブロードバンドを含まず。